

氏名	妹 尾 則 孝
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3194号
学位授与の日付	平成10年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Fractures of the Base of the Middle Phalanx of the Finger -Classification, Management and Long-term Results- (指中節骨底骨折-分類、治療および長期成績-)
論文審査委員	教授 村上 宅郎 教授 田中 紀章 教授 清水 信義

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

指中節骨底骨折を1～5型に分類し、術後5年以上経過した症例の成績を検討した。掌側骨片を有する1型および背側骨片を有する2型をさらに a: avulsion、b: split、c: split depression に細分した。1a型は側方偏位、過伸展力による掌側板付着部の剥離骨折、2a型は背側外力による中央索付着部の剥離骨折であり、1b、cおよび2b、c型は軸圧による関節面の損傷と考えられた。関節面を含む骨折では、リモデリングや変形性関節症が起こり得るため、治療法の正確な評価のため長期成績を調べる必要があると考えた。術後良好で安定した整復位が得られていた症例は、長期成績も良好であった。どのような骨折型においても、転位した骨片の解剖学的整復と内固定を行うことにより、満足すべき結果が得られる。そのため症例においては骨移植を必要とするものもある。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本論文は指中節骨底骨折140例について術後5年経過後の成績を調査した。その結果、どのような骨折においても、転移した骨片の解剖学的整復（骨移植を含む）と内固定を行うことによって、良好な成績が得られることを明らかにした。

以上、本研究者は指骨折の治療について重要な知見を提供しており、博士（医学）の学位を得る資格があると認める。